

令和8年度新潟県病害虫発生予察情報・予報第1号
(4月の発生予想)

令和8年3月31日

【作物名】 病害虫名	予報内容 発生量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠
---------------	--------------------------------------	-------

【麦類】

赤かび病	量：並～やや多い 程度：少発生	① 前年の県予察ほにおける発生量は平年並で、伝染源量は平年並と推定される。(±) ② 3か月予報では、5月の気温は平年比高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。(±～+)
雲形病	量：並～やや多い 程度：少発生	① 前年5月の県予察ほにおける発生量は平年比多く、伝染源量は平年より多いと推定される。(＋) ② 3月下旬の発生量は平年並。(±) ③ 向こう1か月の気温は平年比高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。(±～+)

【冬春トマト（施設）】

灰色かび病	量：並 程度：少発生 (果実発病度1～20)	① 3月下旬の葉および果実での発病は、平年並。(±) ② 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(－)
<p>【防除上の留意事項】</p> <p>① 株の繁茂やハウス内湿度の上昇は発生を助長するので、送風、換気等を行い施設内の湿度低下に努める。</p> <p>② 咲き終わった花卉やチップバーン等は速やかに取り除き、ハウス外に持ち出して適切に処分する。</p> <p>③ 予防に重点をおいた薬剤散布を行う。ただし、薬剤耐性菌の発生を防ぐため、同じ作用機構を持つ薬剤の連続使用は避ける。</p>		
アブラムシ類	量：やや多い 程度：少発生 (寄生株率1～10%)	① 3月下旬の発生は平年並。(±) ② 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(＋)
コナジラミ類	量：やや多い 程度：少発生 (1複葉当たり寄生虫数0.01～9頭)	① 3月下旬の発生は平年並。(±) ② 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(＋)
アザミウマ類	量：並 程度：少発生 (寄生花率1～10%)	① 3月下旬の花への寄生は平年並(±)、白ぶくれ症果の発生は近年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(＋)

【作物名】 病害虫名	予報内容 発生量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠
---------------	--------------------------------------	-------

【冬春いちご（施設）】

灰色かび病	量：並 程度：少発生 (発病果率1～5%)	① 3月下旬の葉および果実での発病は平年並。(±) ② 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(－)
<p>【防除上の留意事項】</p> <p>① 多湿条件で発病が多くなるため、茎葉が過繁茂の場合は下葉を除去し、風通しを良くするとともに、かん水過多にならないよう注意する。</p> <p>② 発病した葉や果実等は速やかに取り除き、ハウス外に持ち出して適切に処分する。</p> <p>③ 薬剤耐性菌の発生を防ぐため、同じ作用機構を持つ薬剤の連続使用は避ける。</p>		
うどんこ病	量：並 程度：少発生 (発病果率1～5%)	① 3月下旬の葉の発病は平年比やや少なく、果実の発病は平年並。(－～±) ② 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(＋)
コナジラミ類	量：並 程度：少発生 (寄生葉率1～25%)	① 3月下旬の発生は平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(＋)
アザミウマ類	量：並 程度：少発生 (寄生花率1～2%、 被害果率1～5%)	① 3月下旬の花の寄生は平年比やや少なく、果実の被害は平年並。(－～±) ② 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(＋)
アブラムシ類	量：並 程度：少発生 (寄生株率1～25%)	① 3月下旬の発生は平年並。(±) ② 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(＋)
ハダニ類	量：多 程度：少発生 (寄生株率1～40%)	① 3月下旬の発生は平年比多い。(＋) ② 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(＋)

～ 防除上の留意事項は、最新の「新潟県農作物病害虫雑草防除指針」を参照してください ～

注1：①「予報内容」の発生量は、予想される発生量が、新潟県における平年の発生量に比べて多いか少ないかを、少、やや少、並、やや多、多の5段階で表記しています。

②発生程度は、予想される発生量が、国の調査実施基準等で定められている、無発生、少発生、中発生、多発生、甚発生のいずれに該当するかを表記しています。

注2：「予報の根拠」の、(＋)は発生量を増加させる要因、(－)は発生量を減少させる要因、(±)はどちらともいえない要因を示しています。

～ 農薬は適正に使用しましょう ～

- 農薬の準備・使用にあたっては、必ず最新の農薬登録情報を確認しましょう。
- 使用に際しては、ラベルに記載の使用基準や注意事項をよく読み、使用者が責任を持って使いましょう。
- 農薬の飛散防止に努めましょう。周辺作物や住宅及びミツバチ等への危害防止のため、周辺の生産者や住民、養蜂業者に事前に防除計画を通知するなどの対策をとりましょう。
- 農薬の使用後は防除日誌や作業日誌等の記帳に努めましょう。
- 水田で湛水して農薬を散布する場合は、処理後7日間の止水を厳守し、落水しないようにしましょう。

【参考】北陸地方 1か月予報（3月28日から4月27日までの天候見通し）

（新潟地方气象台：令和8年3月26日発表）

<予想される向こう1か月の天候>

- ・暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に、期間のはじめは、気温がかなり高くなる見込みです

向こう1か月の平均気温は、高い確率80%です。

週別の気温は、

- 1週目は、高い確率80%です。
- 2週目は、高い確率70%です
- 3～4週目は、高い確率60%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）>

	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気 温	10	10	80
降 水 量	30	30	40
日照時間	40	30	30

<気温経過の各階級の確率（%）>

	低い	平年並	高い
1週目（3月28日～ 4月 3日）	10	10	80
2週目（4月 4日～ 4月10日）	10	20	70
3～4週目（4月11日～ 4月24日）	10	30	60